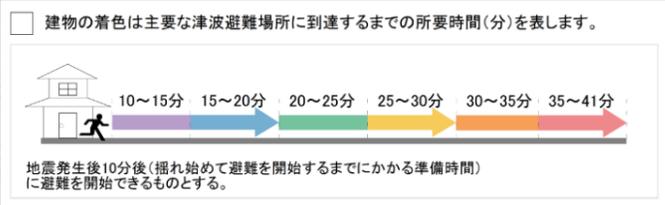


八万地区 津波避難計画 西部版

使い方 自分・家族・地域の近隣の方々と**[確認する]**・**[話し合う]**・**[行動する]**を実践して「私の津波避難計画」を作っていきましょう。
 ◎八万地区の津波避難ルールを確認する。◎家族で避難先や連絡方法について話し合う。
 ◎実際に津波避難場所まで歩いてみて、避難にかかる時間や危険な避難経路を確認する。

道路	避難経路 注意を要する避難経路 要注意箇所 橋 [耐震状況]	エリア1(徳島文理大学 体育館(6号館)へ) エリア2(生涯福祉センター(ふれあい健康館)へ) エリア3(徳島視覚支援学校・徳島聴覚支援学校へ) エリア4(城南高等学校へ) エリア5(八万小学校へ) エリア6(八万中学校へ) エリア7(特別養護老人ホーム ピアへ) エリア8(ファミリーマート法花大橋北店駐車場へ) エリア9(八坂神社へ) エリア10(八万南小学校へ) エリア11(夷山緑地(圓福寺公園)へ) エリア12(法花谷広場や法華庵などのエリアへ) エリア13(避難目標ポイント ● へ)
(津波避難場所) 建物	主要な津波避難場所 津波避難場所 垂直避難可能建物	主要な津波避難場所への避難対象エリア
その他	避難ビル等入り口 かぎ保管庫	



【エリア10 八万南小学校への避難】
 エリア10内の全避難者を八万南小学校で収容することはできないため、橋本町内会の北部(点線内)については、周辺の津波避難場所または眉山側の避難目標ポイントへ避難することが望ましい。

・本図面は、あくまで地区内の避難完了に向けた目安を示したものであり、状況に応じて他地区への避難を妨げるものではない。
 ・避難時は気象状況による影響、崖崩れ、家屋やブロック塀の倒壊、液状化など様々な通行障害が考えられるため複数の避難経路を検討しておく必要がある。

※津波避難場所および垂直避難可能建物に居住する世帯の方は、自身の建物の上階へ避難することが可能

浸水想定区域外への「避難目安ライン」
 眉山山麓に設定した「避難目標ポイント」へ津波到達41分以内に避難が可能と考えられる範囲を示す。避難目安ラインより西側に位置するエリアは、浸水想定区域外への避難を第一に考え、それでも避難できない場合に津波避難場所に避難することが望ましい。

※この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。(承認番号 令4徳島市指令都建第36号)

八万地区の「津波避難計画」を策定しました！

徳島市のホームページで公開しています⇒

http://www.city.tokushima.tokushima.jp/anzen/shoubo_bousai/disaster_prevention/bousai_map/tikubetuhachiman.html



津波からいのちを守る 西部版

八万地区 津波避難計画

非常持ち出し品リスト

地震発生後、できるだけ早く避難を開始できるように、非常持ち出し品袋を準備しておきましょう。

チェック	品名
	非常食
	飲料水
	携帯ラジオ(予備電池)
	懐中電灯(予備電池・電球)
	ヘルメットなど(頭を保護するもの)
	身分証明証のコピー
	貴重品(現金など)
	筆記用具(油性マジック・メモ)
	雨具
	服用中の薬、お薬手帳のコピー
	生理用品
	ティッシュ(ウェットタイプも)
	タオル
	笛
	簡易トイレ(ビニール袋)
	口腔ケア(歯ブラシ、デンタルリンス)
	防寒具(毛布、カイロなど)
	感染症対策用品(マスク・消毒液など)
	携帯電話充電器(モバイルバッテリー)
	連絡先一覧

八万地区の地震・津波の危険性を知っていますか？

「いま」起きるかもしれない

これまで南海トラフ地震は、90年～150年周期で発生しています。1854年に発生した「安政南海地震」以降、東海地震は発生しておらず、いつ大地震が起きてもおかしくありません。

津波による浸水「最大3～4m」

八万地区は、大部分が標高0～3mの「ゼロメートル地帯」です。津波が襲来した場合には大部分が浸水、一部では3～4mの浸水深に達すると想定されています。

「最大震度7」の激震

「阪神淡路大震災」や「東日本大震災」のような非常に大きな揺れが想定されています。木造家屋の多くは倒壊し、液状化により道路なども大きな被害が想定されます。

地震発生から「41分」で津波到達

第1波の津波(20cm)が41分で「マリンプア東端」に到達すると想定されています。第1波が到達する前にいのちを守るための避難が必要です。

津波からいのちを守るためには「避難」が必要です

①いつ？

すぐに避難。強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、避難情報を待たずに、一刻も早く避難を始めましょう。

②どうやって？

原則は徒歩。地震によってまちが大きな被害を受けていたり、渋滞のおそれがあるため、自動車での避難は避けましょう。

③どこを？

使い慣れた道。幅員の広い道。道路被害により通行できないことを想定し、複数の避難経路を確認しておきましょう。

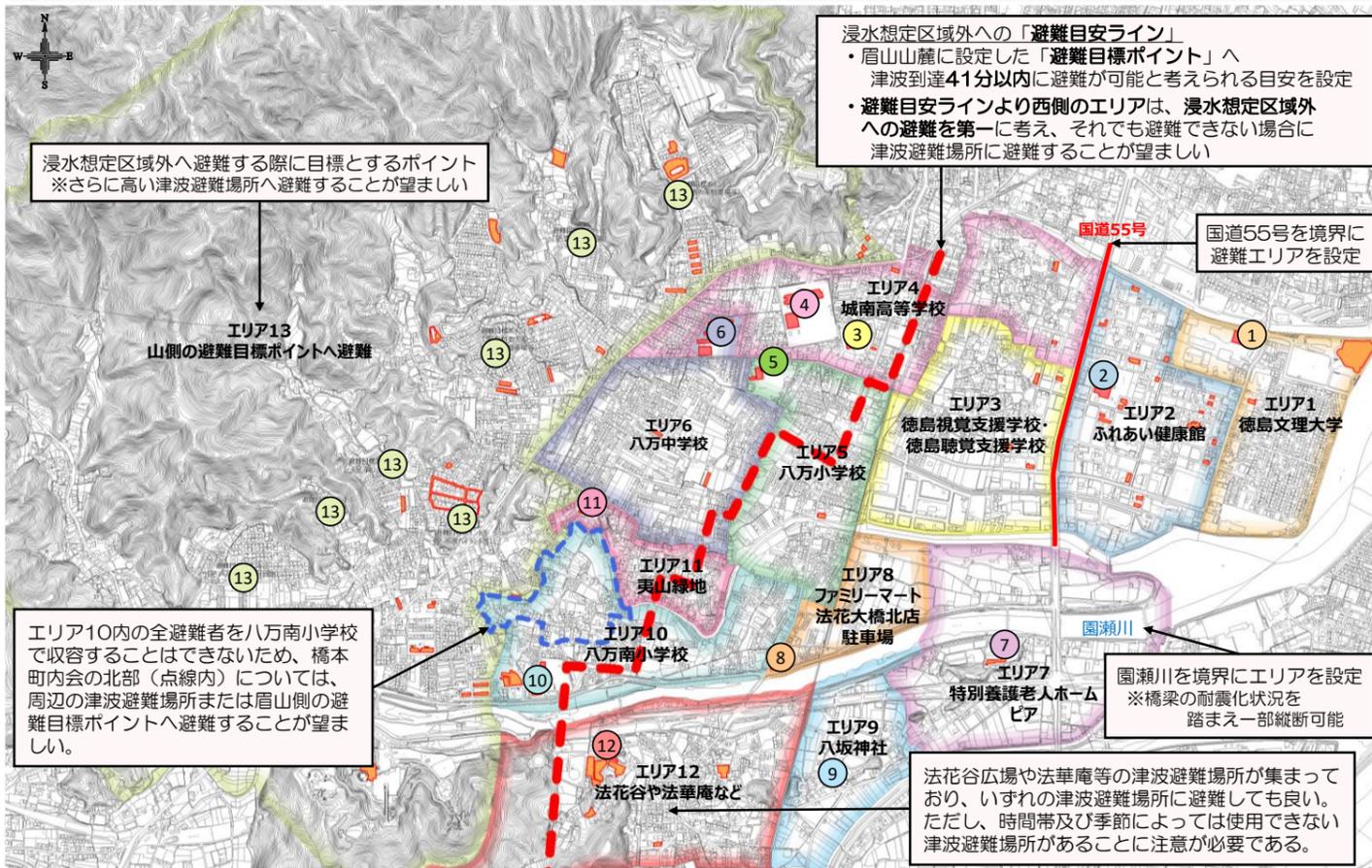
④どこへ？

津波避難場所。津波避難場所の収容可能人数には、限りがあります。あなたのお住まいからの避難先(目安)を「八万地区 津波避難計画」で確認しましょう。

より早く、より高くへ

津波が来るおそれのある場合、避難は「遠くへ」よりも「より早く、より高くへ」が基本です。
強い揺れ、また弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたり、津波警報・大津波警報が発令された場合には、津波から命を守るため、ただちに津波避難場所や近くの高い堅牢な建物、高台に避難してください。

津波における避難先の区分図(目安)



津波からいのちを守る避難先

◆違いを知ろう◆

■指定緊急避難場所

津波避難ビルや緊急避難場所など津波が来るおそれのある場合に**緊急的に避難するための建物や高台、施設**などを指します。

■避難所

安全性が確認された後、救護・救援・情報の拠点となり自宅が被害にあった被災者が**一定の期間避難し、生活を送る施設**を指します。

津波避難場所へ避難

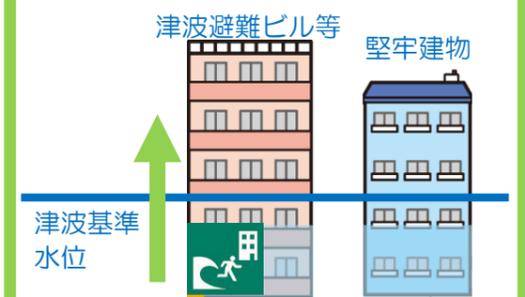
避難行動要支援者を含む・含まないに応じて、主要な津波避難場所あるいは最寄りの津波避難場所に世帯単位で避難する。



上階へ避難

(津波避難ビル等や堅牢建物に居住する場合)

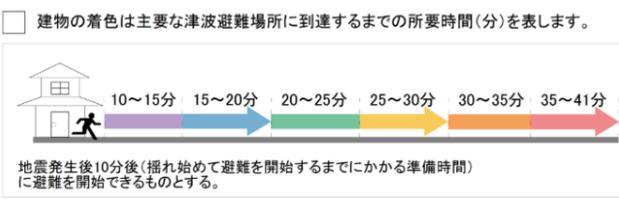
津波避難ビル等と同等の構造を有する堅牢建物に居住する世帯のうち津波基準水位より下の階の在住者は、上の避難可能階へ避難する。



八万地区 津波避難計画 中部版

使い方 自分・家族・地域の近隣の方々と**[確認する]**・**[話し合う]**・**[行動する]**を実践して「私の津波避難計画」を作っていきましょう。

- ◎八万地区の津波避難ルールを確認する。◎家族で避難先や連絡方法について話し合う。
- ◎実際に津波避難場所まで歩いてみて、避難にかかる時間や危険な避難経路を確認する。



- 主要な津波避難場所への避難対象エリア**
- エリア1(徳島文理大学 体育館(6号館)へ)
 - エリア2(生涯福祉センター(ふれあい健康館)へ)
 - エリア3(徳島視覚支援学校・徳島聴覚支援学校へ)
 - エリア4(城南高等学校へ)
 - エリア5(八万小学校へ)
 - エリア6(八万中学校へ)
 - エリア7(特別養護老人ホームピアへ)
 - エリア8(ファミリーマート法花大橋北店駐車場へ)
 - エリア9(八坂神社へ)
 - エリア10(八万南小学校へ)
 - エリア11(夷山緑地(圓福寺公園)へ)
 - エリア12(法花谷広場や法華庵などのエリアへ)
 - エリア13(避難目標ポイント ● へ)

浸水想定区域外への「避難目安ライン」
眉山山麓に設定した「避難目標ポイント」へ津波到達41分以内に避難が可能と考えられる範囲を示す。避難目安ラインより西側に位置するエリアは、浸水想定区域外への避難を第一に考え、それでも避難できない場合に津波避難場所に避難することが望ましい。

【エリア10 八万南小学校への避難】
エリア10内の全避難者を八万南小学校で収容することはできないため、橋本町内会の北部(点線内)については、周辺の津波避難場所または眉山側の避難目標ポイントへ避難することが望ましい。

【エリア11 法花谷広場や法華庵への避難】
法花谷広場や法華庵等の津波避難場所が集まっており、いずれの津波避難場所に避難しても良い。ただし、時間帯及び季節によっては使用できない津波避難場所があることに注意が必要である。

- ・本図面は、あくまで地区内の避難完了に向けた目安を示したものであり、状況に応じて他地区への避難を妨げるものではない。
- ・避難時は気象状況による影響、崖崩れ、家屋やブロック塀の倒壊、液状化など様々な通行障害が考えられるため複数の避難経路を検討しておく必要がある。

※津波避難場所および垂直避難可能建物に居住する世帯の方は、自身の建物の上階へ避難することが可能

道路	避難経路
	注意を要する避難経路
注意	要注意箇所
	橋 [耐震状況]
津波避難場所	主要な津波避難場所
	津波避難場所
	垂直避難可能建物
その他	避難ビル等入り口
	かぎ保管庫

【橋の耐震状況】
橋の落橋防止対策及び耐震補強において、
○:どちらも実施済み(または不要)
△:いずれか実施済み(または不要)
×:どちらも未実施
※落橋防止対策...地震時に落橋に至るような致命的な被害を防止する対策
※耐震補強...速やかな機能回復が可能な性能を目指す対策

※この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。(承認番号 令4徳島市指令部建第36号)

八万地区の「津波避難計画」を策定しました！

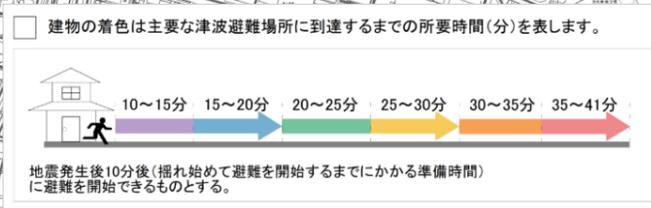
徳島市のホームページで公開しています⇒

http://www.city.tokushima.tokushima.jp/anzaen/shoubou_bousai/disaster_prevention/bousai_map/tikubetuhachiman.html



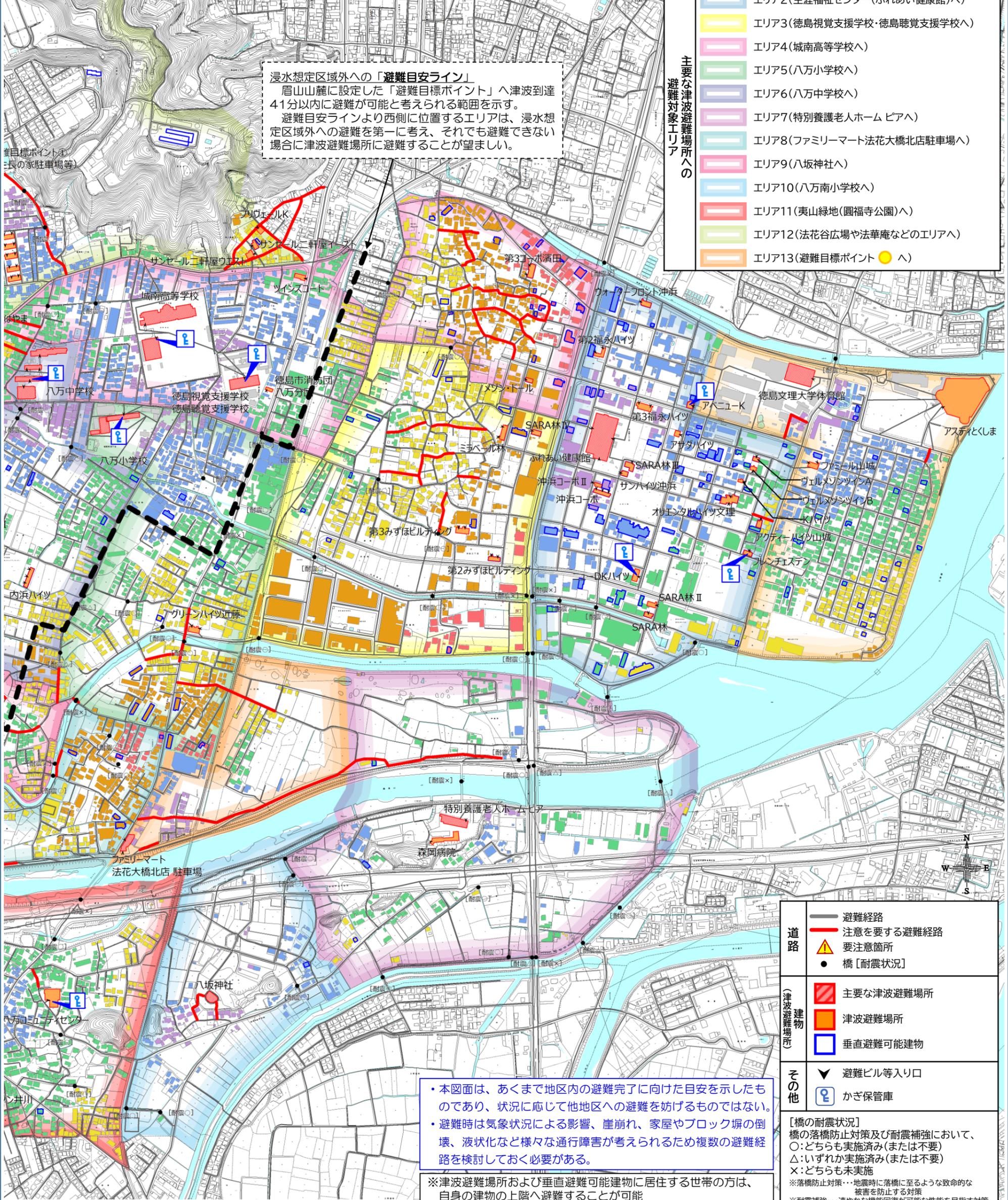
八万地区 津波避難計画 東部版

使い方
 自分・家族・地域の近隣の方々と**[確認する]**・**[話し合う]**・**[行動する]**
 を実践して「私の津波避難計画」を作っていきましょう。
 ◎八万地区の津波避難ルールを確認する。◎家族で避難先や連絡方法について話し合う。
 ◎実際に津波避難場所まで歩いてみて、避難にかかる時間や危険な避難経路を確認する。



浸水想定区域外への「避難目安ライン」
 眉山山麓に設定した「避難目標ポイント」へ津波到達41分以内に避難が可能と考えられる範囲を示す。
 避難目安ラインより西側に位置するエリアは、浸水想定区域外への避難を第一に考え、それでも避難できない場合に津波避難場所に避難することが望ましい。

- 主要な津波避難場所への避難対象エリア**
- エリア1(徳島文理大学 体育館(6号館)へ)
 - エリア2(生涯福祉センター(ふれあい健康館)へ)
 - エリア3(徳島視覚支援学校・徳島聴覚支援学校へ)
 - エリア4(城南高等学校へ)
 - エリア5(八万小学校へ)
 - エリア6(八万中学校へ)
 - エリア7(特別養護老人ホームピアへ)
 - エリア8(ファミリーマート法花大橋北店駐車場へ)
 - エリア9(八坂神社へ)
 - エリア10(八万南小学校へ)
 - エリア11(夷山緑地(圓福寺公園)へ)
 - エリア12(法花谷広場や法華庵などのエリアへ)
 - エリア13(避難目標ポイント ● へ)



道路	<ul style="list-style-type: none"> 避難経路 注意を要する避難経路 要注意箇所 橋 [耐震状況]
(津波避難場所) 建物	<ul style="list-style-type: none"> 主要な津波避難場所 津波避難場所 垂直避難可能建物
その他	<ul style="list-style-type: none"> 避難ビル等入り口 かぎ保管庫

[橋の耐震状況]
 橋の落橋防止対策及び耐震補強において、
 ○: どちらも実施済み(または不要)
 △: いずれか実施済み(または不要)
 ×: どちらも未実施
 ※落橋防止対策...地震時に落橋に至るような致命的な被害を防止する対策
 ※耐震補強...速やかな機能回復が可能な性能を目指す対策

・本図面は、あくまで地区内の避難完了に向けた目安を示したものであり、状況に応じて他地区への避難を妨げるものではない。
 ・避難時は気象状況による影響、崖崩れ、家屋やブロック塀の倒壊、液状化など様々な通行障害が考えられるため複数の避難経路を検討しておく必要がある。
 ※津波避難場所および垂直避難可能建物に居住する世帯の方は、自身の建物の上階へ避難することが可能

※この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。(承認番号 令4徳島市指令都建第36号)

八万地区の「津波避難計画」を策定しました！

徳島市のホームページで公開しています⇒

http://www.city.tokushima.tokushima.jp/anzen/shoubo_bousai/disaster_prevention/bousai_map/tikubetuhachiman.html



津波からいのちを守る 東部版

八万地区 津波避難計画

非常持ち出し品リスト

地震発生後、できるだけ早く避難を開始できるように、非常持ち出し品袋を準備しておきましょう。

チェック	品名
	非常食
	飲料水
	携帯ラジオ(予備電池)
	懐中電灯(予備電池・電球)
	ヘルメットなど(頭を保護するもの)
	身分証明証のコピー
	貴重品(現金など)
	筆記用具(油性マジック・メモ)
	雨具
	服用中の薬、お薬手帳のコピー
	生理用品
	ティッシュ(ウェットタイプも)
	タオル
	笛
	簡易トイレ(ビニール袋)
	口腔ケア(歯ブラシ、デンタルリンス)
	防寒具(毛布、カイロなど)
	感染症対策用品(マスク・消毒液など)
	携帯電話充電器(モバイルバッテリー)
	連絡先一覧

八万地区の地震・津波の危険性を知っていますか？

「いま」起きるかもしれない

これまで南海トラフ地震は、90年～150年周期で発生しています。1854年に発生した「安政南海地震」以降、東海地震は発生しておらず、いつ大地震が起きてもおかしくありません。

津波による浸水「最大3～4m」

八万地区は、大部分が標高0～3mの「ゼロメートル地帯」です。津波が襲来した場合には大部分が浸水、一部では3～4mの浸水深に達すると想定されています。

「最大震度7」の激震

「阪神淡路大震災」や「東日本大震災」のような非常に大きな揺れが想定されています。木造家屋の多くは倒壊し、液状化により道路なども大きな被害が想定されます。

地震発生から「41分」で津波到達

第1波の津波(20cm)が41分で「マリンプア東端」に到達すると想定されています。第1波が到達する前にいのちを守るための避難が必要です。

津波からいのちを守るためには「避難」が必要です

①いつ？

すぐに避難。強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、避難情報を待たずに、一刻も早く避難を始めましょう。

②どうやって？

原則は徒歩。地震によってまちが大きな被害を受けていたり、渋滞のおそれがあるため、自動車での避難は避けましょう。

③どこを？

使い慣れた道。幅員の広い道。道路被害により通行できないことを想定し、複数の避難経路を確認しておきましょう。

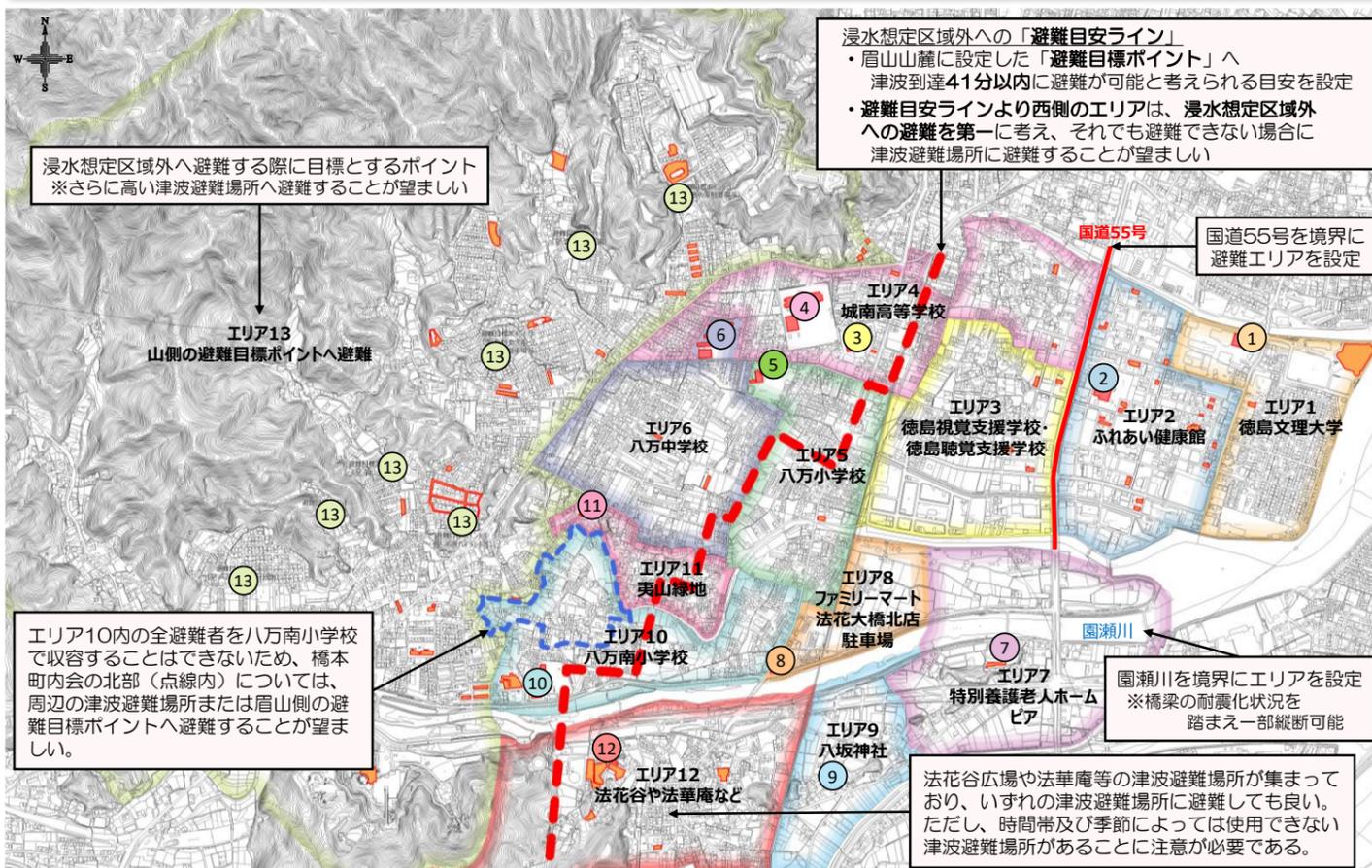
④どこへ？

津波避難場所。津波避難場所の収容可能人数には、限りがあります。あなたのお住まいからの避難先(目安)を「八万地区 津波避難計画」で確認しましょう。

より早く、より高くへ

津波が来るおそれのある場合、避難は「遠くへ」よりも「より早く、より高くへ」が基本です。
強い揺れ、また弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたり、津波警報・大津波警報が発令された場合には、津波から命を守るため、ただちに津波避難場所や近くの高い堅牢な建物、高台に避難してください。

津波における避難先の区分図(目安)



津波からいのちを守る避難先

◆違いを知ろう◆

■指定緊急避難場所

津波避難ビルや緊急避難場所など津波が来るおそれのある場合に**緊急的に避難するための建物や高台、施設**などを指します。

■避難所

安全性が確認された後、救護・救援・情報の拠点となり自宅が被害にあった被災者が**一定の期間避難し、生活を送る施設**を指します。

津波避難場所へ避難

避難行動要支援者を含む・含まないに応じて、主要な津波避難場所あるいは最寄りの津波避難場所に世帯単位で避難する。



上階へ避難

(津波避難ビル等や堅牢建物に居住する場合)

津波避難ビル等と同等の構造を有する堅牢建物に居住する世帯のうち津波基準水位より下の階の在住者は、上の避難可能階へ避難する。

